

「女性の活躍推進に関する世論調査」結果のポイント

内閣府が発表した「女性の活躍推進に関する世論調査」（2014年8～9月実施）の結果によると、女性の活躍を進めるに際しての障害として、5割の人が「夫などの家族の支援が十分ではないこと」と回答。また、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なこととして、約7割の人が「保育所や学童クラブなど、子供を預けられる環境の整備」と回答しています。

1. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に対する意識 *ゴシック文字=最大項目

「賛成」が44.6%（「賛成」12.5%+「どちらかといえば賛成」32.1%）、「反対」が49.4%（「どちらかといえば反対」33.3%+「反対」16.1%）。

賛成の理由（複数回答）は、「妻が家庭を守った方が、子供の成長などにとって良いと思うから」59.4%が最多、以下、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」37.3%、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」27.0%などが続く。

反対の理由（複数回答）は、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」48.5%が最多、以下、「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」42.6%、「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」42.3%、「男女平等に反すると思うから」35.7%などが続く。

2. 女性が職業をもつことに対する意識

「①女性は職業をもたない方がよい」2.2%、「②結婚するまでは職業をもつ方がよい」5.8%、「③子供ができるまでは、職業をもつ方がよい」11.7%、「④子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい」44.8%、「⑤子供ができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」31.5%。

①・②・③の回答理由（複数回答）は、「子供は母親が家で面倒を見た方がよいと思うから」が51.3%と最多、以下、「女性は家庭を守るべきだと思うから」26.5%、「女性も経済力を持った方が

よいと思うから」21.4%、「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから」16.9%、「働き続けるのは大変そうだと思うから」14.5%、「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」14.0%、「保育料などを払うより、母親が家で子供の面倒を見た方が合理的だと思うから」11.9%となっている。

④・⑤の回答理由（複数回答）は、「女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから」51.8%が最多、以下、「女性も経済力を持った方がよいと思うから」47.5%、「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから」33.8%、「働くことを通じて自己実現が図れると思うから」29.2%、「子供は母親が家で面倒を見た方がよいと思うから」27.4%などが続く。

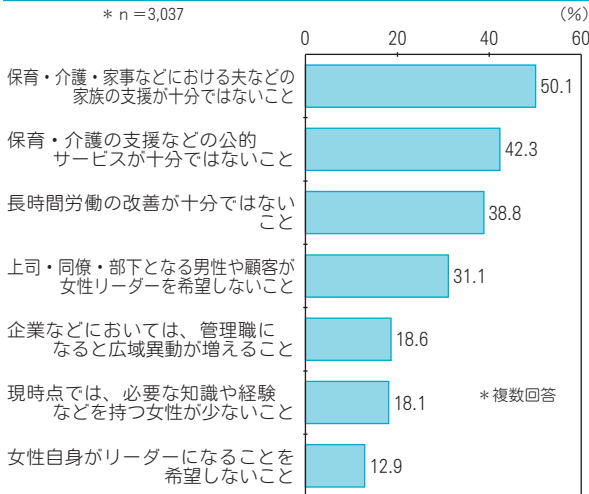
3. 女性の活躍が進んだ時の社会・組織等の姿（複数回答）

「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」65.0%が最多、以下、「女性の声が反映されやすくなる」55.9%、「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」42.8%、「人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる」34.7%。

4. 女性の活躍を進めるに際しての障害（複数回答）

「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」50.1%が最多、以下、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」42.3%、「長時間労働の改善が十分ではないこと」38.8%、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」31.1%などが続く。

女性の活躍を進めるに際しての障害・上位7項目

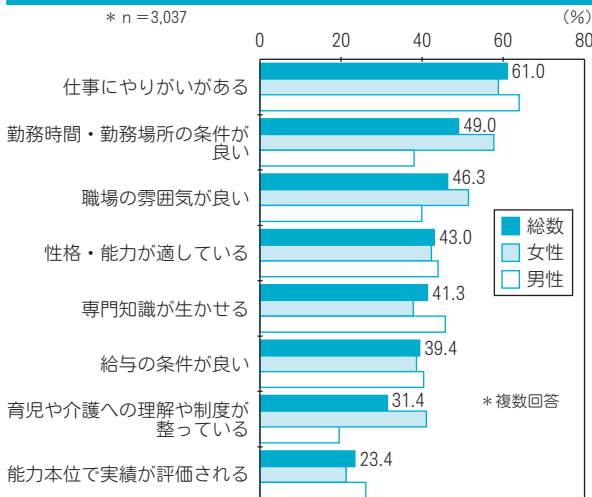


5. 仕事を選んだ（選ぶ）理由（複数回答）

仕事を選ぶ際に重視すること、またはしたいことは、「仕事にやりがいがある」61.0%が最多、以下、「勤務時間・勤務場所の条件が良い」49.0%、「職場の雰囲気が良い」46.3%、「性格・能力が適している」43.0%、「専門知識が活かせる」41.3%、「給与の条件が良い」39.4%などが続く。

性別に見ると、「仕事にやりがいがある」、「専門知識が活かせる」は男性で、「勤務時間・勤務場所の条件が良い」、「職場の雰囲気が良い」割合は女性で、それぞれ多くなっている。

仕事を選んだ（選ぶ）理由・上位8項目



6. 管理職以上への昇進のイメージ（複数回答）

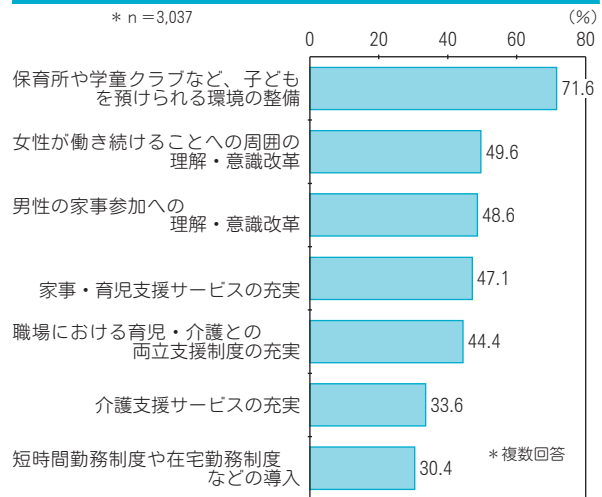
「責任が重くなる」66.4%が最多、以下、「能力が認められた結果である」54.4%、「やりがいのあ

る仕事ができる」36.6%、「賃金上がる」35.0%。

7. 出産後の仕事、家事以外での活躍

女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なこと（複数回答）は、「保育所や学童クラブなど、子供を預けられる環境の整備」71.6%が最多、以下、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」49.6%、「男性の家事参加への理解・意識改革」48.6%、「家事・育児支援サービスの充実」47.1%、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」44.4%などが続く。

女性が働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことに関する意識・上位7項目



出産等で離職した女性が、再び家事以外で活躍する仕方として良いと思うもの（複数回答）は、「これまでの知識・経験を活かして働けることを重視し、正社員として再就職する」55.4%、「仕事と家事・育児・介護の両立しやすさを重視し、正社員として再就職する」53.1%が多く、以下、「これまでの知識・経験を活かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」37.7%、「働く時間や場所を最も重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」27.7%などが続く。

少子高齢化が進む日本で「女性の活躍」が期待されている。その実現には男性や地域社会、企業や行政等の意識改革が不可欠である。（島田清彦）